

長崎の林業

小曾根星堂書



平成 30 年度森林のめぐみ展示会の様子（ベルナード観光通り）

2

目次

- 林政だより 森林整備事業を活用して健全な森林づくり…………… 2～3
- 特集記事 長崎県民の森管理事務所長 田中隆行さん…………… 4～5
- 林業普及だより 未来への種まき～林業の成長産業化に向けて～（島原）… 6
- 地方だより・県央 木育キャンプが開催されました！…………… 7
- 地方だより・県北 県内初！松浦市がウッドスタート宣言…………… 8
- 林業団体情報 県内の林業研究グループが豊かな森の恵みを届けます！
第16回森林のめぐみ展示会開催…………… 9
- センターだより 剥皮と棧積みによるヒノキ丸太の乾燥促進効果…………… 10
- 紹介コーナー 自然共育コミュニティ 森のわ…………… 11
- 長崎県緑の少年団連盟 全県交流会を開催しました！…………… 12



2020
No.773

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

森林整備事業を活用して健全な森林づくり



森林整備の必要性

森林は木材の生産に加え、土砂災害の防止や水の貯留、生物多様性の保全、地球温暖化の緩和など様々な働きを持っています。このような森林の持つ機能を十分に発揮させ、維持させるためには、人がしっかりと手入れを行い、健全な状態を維持する必要があります。

森林の整備は、苗木の植栽、雑草を取り除く下刈り、雑木を取り除く除伐、植栽木の本数を調整して残りの植栽木の生育を促す間伐、そして木材として収穫する主伐という行程があります。これらの施業を継続的に行わないと、森林が荒れてしまい、森林の持つ様々な機能も失われてしまいます。



高性能林業機械（プロセッサ）

また、写真のようなプロセッサなどの大型の高性能林業機械を用いて効率的な施業を行う上で、林業機械を通すために必要となる林道や作業道などの路網整備も欠かせません。



整備が不十分で荒廃した森林



適切に整備された森林

造林補助事業

前記のように、森林整備を行うには非常に手間がかかり、多額の費用も必要となります。そのため、森林整備にかかる費用に対し、国から補助を受けることができ、県内でも多く活用されています。

造林事業には、間伐等の施業と作業道整備の補助や、台風等の気象害、シカなどの獣害により、所有者の自助努力では整備が難しい森林の整備に対する補助、防風などの働きを担う松林において、松くい被害を受けた場合の伐倒、焼却、樹種転換のための費用に対する補助など、様々な制度があります。

さらに、長崎県では国の補助金に加え、一部の施業にはながさき森林環境税を活用して、所有者負担を軽減し、森林整備の促進に力を入れています。

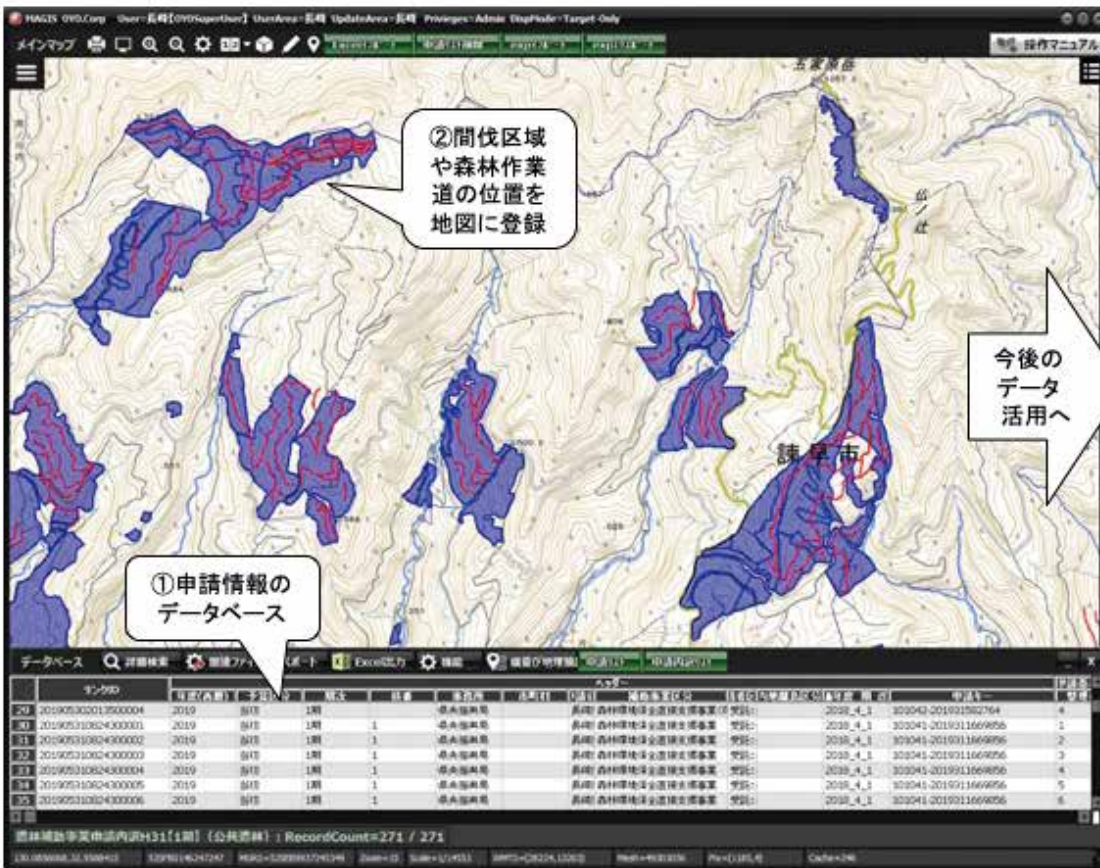
補助申請書類の作成システム

補助を受けるには、交付申請書類を作成する必要がありますが、補助金額の計算や、施業図の作成など、非常に手間がかかるといわれています。この問題を解決するため、県では森林整備空間情報システムを導入し、運用を開始しました。

必要な情報を入力したデータを森林整備空間情報システムに取り込めば、補助金額が自動で計算され、必要な申請書類を作成することができます。また、施業図も作成でき、申請データと施業図を紐づけできるため、いつ、どこを施業したかを簡単に管理することができます。より便利に活用できるように、今後も改修していく予定です。

健全な森林づくりのために、これらの造林事業をぜひご活用ください。

(森林整備室 森林整備班)



③データ活用に期待される効果

1. 事業情報の一括管理による計画的な事業実行支援
2. 森林整備情報の効率的な蓄積と今後の施業プランへの活用
3. 情報の一元管理によるICTの推進（データ共有）

森林整備空間情報システム上の画面
(①申請内容や②施業箇所を簡単に確認できる。)



【特集記事】

長崎県民の森 管理事務所長

田中隆行さん

今回は、平成31年4月に長崎県民の森 管理事務所長に就任された田中隆行さんを紹介します。

森林との出会い

田中所長は若かりし頃、青年海外協力隊の一員としてネパールに派遣され、ヒマラヤのふもとで200haの植樹活動に従事した経験をお持ちです。まだ林学を専攻する学生であった昭和56年(1981年)の事です。

当時ネパールの山岳地域での暮らしでは、燃料としてほとんど薪が使われ、その為に森林が盛んに伐採されました。伐採後、植林が行われることはなく、また仮に植林しても、放牧された家畜の食害にあうことも多かったといえます。元々我が国と違い、森林再生に有利な気候条件を持たない当地では、森林の荒地化、不毛化が危惧されていました。

2年半にわたるネパールでの日々は、人の暮らしと森や自然の現実を問いかける時間でした。同時に自分自身のこれからのついて、深く考える時間でもあったといえます。

長崎県民の森との関わり

帰国後、田中さんは県林政課の行政マン

としてキャリアをスタートさせます。林業の現場だけではなく普及の担当部署にも長く籍を置き、森林と県民とを繋ぐ役割を果たしてこられました。そして現役の頃から、後述する「県民の森インタープリター会」の会員としても、イベントや講習会を通じて、直接来園者と接するなど活躍してこられました。

所長としてはスタートを切ったばかりですが、それ以前からの長い関わりの中で育まれた県民の森への愛着は深く、その口からは、県民の森の魅力がとどまることなく語られます。その広大さ、植物観察や森林散策など来園者の多様なニーズに応えることのできる森の姿、充実した施設等々、これらは田中さんの語られたほんの一端にすぎません。中でも特に、立地する周辺地域までを納めた視野と、ソフト面でのサービスの重要性を語られる姿に意気込みを感じます。

西彼半島の魅力の発信源として

世界文化遺産に認定された潜伏キリシタ

ン関連遺産の多くが、県民の森の周辺にあります。県民の森を源流とする神浦川のすぐ下流、出津集落にはド・ロ様として今でも地元で親しまれている神父の献身的な努力の結晶である天主堂、授産施設、少し足を延ばせば、夕日の絶景ポイントに建つ遠藤周作記念館。

田中さんは、県民の森を訪れた方々にここを拠点として、そのさまざまな施設を訪れ、刻まれた歴史に直に触れてほしいと語られます。その言葉には、単に県民の森の集客ばかりを追っているのではなく、地域とともにある県民の森を志向する想いが感じられます。若き日のネパールでの経験で身に着けた地元住民と一体となる姿勢が、田中さんの中に今も息づいているのでしょう。

インタープリターとして

公立の集客施設に対しては「ハードはあるけどソフトがない」といったことが長く言われ続けてきました。長崎県民の森も例外ではありません。その声に応える形で県民の森では平成12年に「ながさき県民の森インタープリター会」が設立され、今年で18年となります。県庁林政課で林業普及指導員として県内各地を飛び回り一般の方と接してこられた田中さんも、常々ソフト面の重要性を痛感していたといいます。五島振興局在任中の平成10年「長崎県ネイチャーゲーム協会」が設立されるとすぐさま指導員の資格を取ります。そして平成21年本庁異動、県民の森担当となると、「県民の森インタープリター会」に入会、公私ともに、森林と人々の間をつなぐ役割を担ってこられたわけです。インタープリター会には、「自然観察」「ウォーキング」「天文」「ネイチャーゲーム」「木工」と5部会がありますが、田中さんが選んだのがネイチャーゲームではなく、木工部会であったのは、林政マンでありインタープリターでもある田中さんならではの気がします。県民の森のインタープリターとしての活動は、平成24年対馬への赴任をきっかけに3年で幕を閉じま

したが、インタープリテーション活動をその土地土地で実践する姿勢は持ち続けてこられました。延べ13年にわたる離島での赴任経験は、離島の子どもたちに自然を解説することによって森の魅力を感じてもらい機会をもっと増やしたいという思いを抱かせることとなったといいます。所長となった現在、ながさき森林環境税などの制度を活用してそのような機会を創出したいという抱負を聞かせてくれました。

スタッフと共に

インタープリター会の会員であった当時、田中さんは会の中で若手に属する存在でした。前面に出て、対象者に向かい合うというよりも、どちらかというと裏方に回って、連絡調整に走り回るスタイルでした。その頃会が主催する100名規模のキャンパイベントに筆者はたまたま居合わせたことがありますが、そのオープニングのスタッフ自己紹介でご自分のことを「使いつ走りです。」と紹介されていたことを鮮明に覚えています。現在も立場は違いますが、スタッフの自主性を尊重し、その能力を最大限引き出そうという姿勢を変えることなく、県民の森の運営に当たっているとのこと。また宿直や、園内のパトロールなどの業務もスタッフと同様にこなされているといいます。スタッフからの人望も厚く、長く子供たちや地域住民と向き合う中で醸された、独特の柔らかな雰囲気、県民の森のサービスに反映されていく事でしょう。今後のご活躍が期待されます。



「緑の募金」PRイベントでは焦がし絵体験を実施

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

未来への種まき～林業の成長産業化に向けて～（島原）

はじめに

島原半島における大きな課題は、林業の担い手不足です。これは林業に限らず、地域別でもみても高校生の県内就職率が最も低く、そのうえ高校生の約7割が半島外への流出している状況であり、人口減少は島原半島全体の課題とも言えます。

このような中、当地域の林業成長産業化に繋げるために、様々な事に取り組んでいます。

林業事業体の結束で根を張ろう！



当地域の林業の担い手は、平成28年は雲仙森林組合の他に1事業体だけという状況でした。

そこで、林業に繋がりのある異業種の方々に参入を働きかけ、平成29年に2者、平成30年に1者が参入されました。平成29年には、その方々のこれまで培ってきた得意分野を活かしつつ、全体のレベルアップを図るために、半島内で林業版の共同事業体（Forest Joint Venture 略してFJV）を結成！

検討・実践を繰り返しながら、年に3～4箇所の現場でFJVの作業が実現しています。



人材確保の種まき

令和元年度は、初の試みで、島原半島の大きなイベント「くにみの日」のお祭りに、FJVで林業のブースを出展しました。

島原半島の方たちに、「林業」の仕事の魅力を知ってもらえる事が大きな狙いでしたが、親子など多くの来場があり、大盛況でした。



将来を担う子どもたちにも、丸太切りやマイ箸作りで、林業の楽しさに触れてもらうことができました。



将来はフォレストワーカー！

※このイベントは、長崎県林業改良普及協会から、活動費を支援していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

最後に

林業の成長産業化は一日にして成らず。FJVも、過去の普及の種まきにより今があります。これから未来へ繋げるために、今後も種をまこう！

（島原振興局 林務課）

木育キャンプが開催されました！

森林の働きについて学ぶ

11月9日（土）と30日（土）に、国立諫早青少年自然の家 教育事業「木育キャンプ」が開催され、小学生4・5年生が9日に27名（諫早市・大村市・佐賀県）、30日に46名（長崎市・西海市）が参加しました。木育キャンプでは、「森林のはたらきを知り、丸太から木材になるまでを学ぼう」をテーマに、「すだらの森」の散策や木こり体験を行いました。切り出した丸太からコースターを作成したり、県央木材協同組合（製材所）で、丸太から木材になるまでの過程を見学したりと、木に触れながら木の良さを理解することができ、森林のはたらきを学ぶ良い機会になりました。

森林散策

諫早市高来町に位置する「すだらの森」で人工林と天然林の違いを観察したり、多良岳からの湧き水を飲んだりと散策を楽しみました。散策後に、県央振興局林業課の職員が紙芝居とパネルを使って、森林のはたらきについて説明しました。山についてあまり知らない、木を伐ることが悪いことだと考えている子どもも多くいましたが、「山を大切にしなければいけない理由が分かった」「木のお世話をしないと人が困ってしまう理由が分かった」等の感想をいただきました。



木こり体験（間伐体験）

森林散策後は、大山共有林（諫早市富川町）に場所を移し、間伐作業を体験しました。直径10～15cmの小径木を班ごとに協力し、のこぎりを使って伐倒しました。

木の重さや間伐前と後での林内の明るさの違いなどを感じることができました。また、木材の活用の例として、間伐した木を使って丸太のコースターを作成しました。



活動を通して

今回の木育キャンプでは、子どもたちが森林の役割を知り、自然に親しむ良い機会になったと思います。これからも子どもたちが自然とのふれあいを通しての心豊かな育成に繋がる活動を支援していきます。



（県央振興局 林業課）

県内初！松浦市がウッドスタート宣言

「木育」ってなに？

みなさんは、「木育」という言葉を聞いたことがありますか？

「木育」とは、木材や木製品との触れあいを通じて、森林や自然を大切に考えて行動できる人間を育てる教育のことを言います。

この木育に特に力を入れているのが松浦市で、豊富な水を蓄えるための森林整備の推進と、急速に進む人口減少と少子高齢化対策に対し子育て支援を充実させるため、平成30年度から「木育」を推進しています。



ウッドスタートって？

東京おもちゃ美術館の運営団体でもある認定NPO法人 芸術と遊び創造協会が展開する木育行動プランとして、赤ちゃんに誕生祝い品で木製おもちゃを贈るなど、子育て環境に地産地消の木製品をふんだんに取り入れる取組で、全国で50以上の自治体や企業がウッドスタート宣言を行っています。



松浦市のこれまでの取組

①木育キャラバン

平成31年2月、県内初の移動型おも

ちゃ美術館「木育キャラバン」を開催し、東京おもちゃ美術館の木製おもちゃが松浦に大集合しました。2日間で2000人の来場と大好評でした。

②松浦市木育推進計画

令和元年9月、「松浦市木育推進計画」を策定し、木育に関する事業を計画的に推進していくこととしています。詳しくは市のHPで確認できます。

③木育講演会

同年9月、芸術と遊び創造協会の多田理事長を講師に招き、子育て世代の親子や保育所等施設関係者が木育についての講演を聴き、機運が高まりました。



2月22日にウッドスタート！

④ウッドスタート宣言

令和2年2月22日、松浦市生涯学習センター（きらきら21）において、長崎県内では初めてとなる「ウッドスタート宣言」調印式が行われます。

⑤木育円卓会議

調印式と同日に行われ、林業関係者・子育て関係者など、木材を作る人から使う人までが円卓を囲み、木育の仕組みづくりなどについて議論されます。

県内の木育リーダーとして、今後も松浦市には注目です。

（県北振興局 林業課）

- 林業団体情報 -

県内の林業研究グループが豊かな森の恵みを届けます！
 もり
 第16回森林のめぐみ展示会開催

はじめに

長崎県内には10の林業研究グループがあり、林業技術の向上・林業経営の発展をめざして間伐などの林業施業やしいたけ、ハランなど地域の特産林産物などについての研究や集団での実践活動を行うために活動しています。

また、1年に1度開催される、九州地区林研発表大会に参加し、取り組んだ研究の成果について発表しています。こうした活動は、県民の方々に森林の大切さや、森林の果たす役割を広く理解していただくための活動であるとともに、林業が業として成り立っていくためにどうすべきかを研究し、公表することは大きな使命だと感じています。

林業研究グループの活動

林業研究グループでは、他の地域のグループの人達や都市部の皆さんとの交流を深めるために、1年に1回、長崎市浜町ベルナード観光通りにおいて「森林（もり）のめぐみ展示会」を開催しています。

この展示会では、日頃、グループで研究、活動をし、作っている林産物や木工製品、クラフト等を持ち寄り販売します。

主な展示品

ヒノキのまな板、木製飾り棚、木製ベンチ、ストラップ、テーブル、イス、ハラン、椎茸（生、乾燥）、自然に関する野草、椿木工品、椿苗、竹トンボ、竹細工、生け花の材料

その他、会場には地球温暖化を防ぐなどの森林の働きを説明したパネルも展示します。

こういった展示会をはじめ、自主的な活動や研究を行って行く中で得られた成果をパンフレットにし、林業の普及・啓発、PRに繋がればと願っています。県民の皆さまの目に入りやすい場所に設置しておりますのでぜひご覧ください。



名称：第16回森林のめぐみ展示会
 日時：令和2年3月7日（土）
 10時30分～15時30分
 場所：長崎市浜町ベルナード観光通り
 問合せ：長崎県林業研究グループ連絡協議会
 住所：諫早市貝津町1122-6
 （林業会館）
 電話：0957-25-0177

会場案内図



センターだより

はくひ さんづみ
剥皮と栈積みによるヒノキ丸太の乾燥促進効果

はじめに

木質バイオマスを燃料として利用する場合、一般には含水率が50%程度のものが求められています。しかし、スギやヒノキは伐採直後の含水率が100%を超えるものもあります。そのため、丸太を1年近く乾燥させているチップ生産者もいます。さらに、県内においては、乾燥させるための土場が狭いため、丸太を効率的に早く乾燥させる方法が求められています。そこで、今回は乾燥が促進されると考えられる剥皮した丸太（長崎の林業 No.757 参照）をはえ積みして天然乾燥を行い、そのときの栈木による乾燥促進効果を調査しました。併せて、はえ内の丸太の位置別に乾燥速度を調査したのでその結果を紹介します。

試験に用いた丸太と試験区の概要

今回の試験には、長さが2mの剥皮したヒノキ丸太を用いました。丸太は各試験区21本とし、りん木のう上に三角状に積みました（図1）。栈木を入れた試験区は丸太2段毎に栈木を入れました。また、はえ積みした丸太を位置により南、北、内に区分しました。

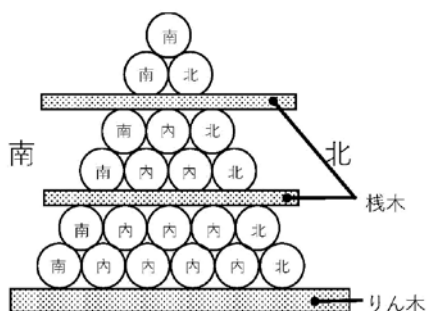


図1 浅木を入れた試験区のはえ積み状況とはえ内の位置による区分

含水率の推移と含水率が50%になるまでの日数

丸太の含水率は試験開始後から大きく低下し、2月27日には栈木なしでは29%、栈木ありでは27%でした（図2）。梅雨時期にわずかに含水率は増加していましたが、試験終了時には栈木なしでは21%、栈木あり

では20%でした。含水率が50%になるまでの日数は栈木なしでは30日、栈木ありでは20日であり、栈木による乾燥促進効果がみられました。

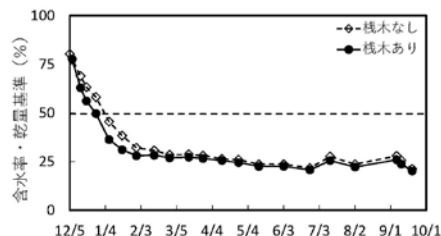


図2 含水率の推移

はえ内の丸太の位置別の乾燥速度

乾燥速度は、はえ内の丸太の位置により異なっており、両試験区とも、乾燥速度は南が最も速くなっていました（図3）。北と内では差はみられませんでした。南の乾燥速度が速かったのは、直射日光が南の丸太にあたり温度が高くなったことと、はえの外側に位置しているため通気がよかったことが要因として考えられます。

おわりに

今回の試験では、栈木による乾燥促進効果とはえ内の位置により乾燥速度が異なることが分かりました。しかし、栈木の有無では含水率50%になるまでの日数の差はわずか10日でした。そのため、今後は栈木を入れる場合の労力やコストも検討し、一定の含水率の木質バイオマスを低コストで安定供給するための試験研究に取り組んでいきます。

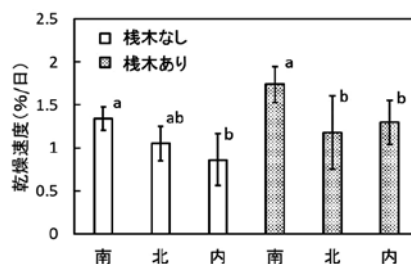


図3 はえ内の丸太の位置別の乾燥速度
※各試験区において、異なる文字間に5%で有意差あり

（農林技術開発センター）

紹介コーナー 自然共育コミュニティ 森のわ



「自然共育コミュニティ 森のわ」は2014年に設立されました。自然に触れる遊びを通して、さまざまな人が身近な自然に気づき、自然の中でコミュニティを形成し、共に育みあう場づくりを行っています。

活動フィールドの場づくりとして、長崎市民の森にて森林整備を行い、整備された森で幼児から小学生の親子対象の森遊び「もりのおうち」を開催しています。

森では主にシェアリングネイチャーのアクティビティを実施し、五感を使った季節の遊びを楽しみます。親子で森の自然を見て触って聞いて、遊んだ後にはみんなで作ったスープを食べ、親子のみならず他の参加者やスタッフとの会話を楽しみながらゆったりとしたひと時を過ごすことができます。自然から学ぶことはたくさんあります。是非ご参加されてみてはいかがでしょうか。

イベントの開催情報はHPやFacebookに掲載していますので、是非ご覧ください。

自然共育コミュニティ 森のわ

MAIL :mail@morinowa.org

●公式HP

<https://morinowa.org>

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和2年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	16,000	多い	普通	普通
	16~18	小曲り	13,900	多い	普通	普通
	20~22	直	15,800	多い	普通	普通
	20~22	小曲り	13,900	多い	普通	普通

【スギ】

令和2年1月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,000	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎県緑の少年団連盟 全県交流集会を開催しました！



長崎県緑の少年団全県交流集会は日頃の活動状況を発表し、少年団間の相互研鑽及び活動の活性化を図ることを目的として毎年開催しています。令和元年12月7日(土)～8日(日)、諫早青少年自然の家にて10団の緑の少年団と指導者・引率者、県市町職員等を含め約100名が参加しました。

活動発表大会では、6団の少年団がそれぞれの地域で1年間活動してきたことを発表しました。主な活動として植樹活動や緑の募金、花苗の植栽等の他に、独自で行った林産物販売体験や地域の天然記念物の学習、環境日記等の活動をしている団もありました。

発表した少年団からは「発表するのはすごく緊張したけれど発表できて良かった。」「他の少年団の活動もやってみたいと思うような良い発表だった。」という感想があり、お互いに競いあいながらも刺激を受けた発表大会だったと感じました。

今回、最優秀賞を受賞した郷ノ浦緑の少年団は来年行われる全国緑の少年団発表大会に長崎県代表として推薦します。

少年団の交流活動は7日の18時15分と8日の9時の2回行われました。7日の「門松づくり体験」では、門松を飾る意味や竹を飾る理由、29日以降に飾ってはいけない理由等を学びながら門松を作りました。また、8日の「植物種子の模型作成」では、植物が子孫を増やすために風や鳥等様々なものを利用するということから始まり、「カラスムギ」、「アルソミトラマクロカルパ」、「ラワン」等の模型を作成し、種子が散布

される様子を体験しました。参加した少年団からは、「門松を初めて見た・作った。」「身の回りの色々な植物には色々な工夫がされていることを知った。」「班の皆と会話しながら楽しく作ることができた。」等の感想がありました。

指導者研修では、指導者のスキルアップを目的として行っているもので今年は「手と頭と火とチームワークを使ったプログラム」をテーマに火起こし体験を実施しました。野外で調達できるものと最低限の道具でやかんのお湯を沸かすことを課題として3班に分かれそれぞれ活動しました。長年の経験と知識、チームワークを駆使し3班全てのお湯を沸かすことができました。「体験しながら知恵を絞って活動できた。」という感想もあり、実践的な活動が今後の参考になると感じました。

活動を通して、交流活動・指導者研修も学び・楽しみながら活動ができたのではないかと思います。今回の経験を生かし、森林保全、環境保護、地域の為に今後も活発かつ継続的な活動に繋がって欲しいと思います。

(NPO 法人地域循環研究所)

長崎の林業 2月号 第773号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp